

地域防災訓練の実施について

1 目的

東日本大震災では、津波により多大な犠牲が生じたが、身に迫る危険の予測と迅速な避難行動の有無が生死を分ける結果となった。また、防災訓練に参加していた人の生存率が高かったことから、訓練参加の重要性と繰り返しの訓練の大切さが再認識されている。これらの教訓を市民一人ひとりの地震対策につなげるため、防災活動の原点に立ち返り、地域でどのような被害が発生するのかを考え、自らの命を守る「自助」と、自らの地域を守る「共助」の取組みを総点検し、「減災」の実現を図る。

【訓練テーマ】

「身近な危険 再発見！～災害を知ることから始まる 自助・共助～」

2 実施日

平成24年12月2日（日） 午前9時から正午まで

3 参加機関

自主防災組織、消防署、消防団、市、県

4 訓練想定

駿河トラフから南海トラフを震源域とする大規模地震が突然発生し、県内の各地は震度6弱以上の揺れとなり、県下の沿岸には大きな津波が襲来するなど、県下全域に大きな被害が発生した。（家屋の倒壊・流出、山・崖崩れ、道路の損壊、橋梁の落下や電気、ガス、水道、電話、交通機関等の被害及び多数の負傷者の発生）

5 防災訓練スケジュール

午前7時05分	同報無線で訓練実施（中止）のお知らせ
午前9時00分	訓練地震発生 「サイレン1分間吹鳴」 緊急速報メール配信（県）
午前9時05分	訓練津波警報発令 サイレン・同報 緊急速報メール配信（市）
午前9時45分	訓練火災発生 サイレン・同報
正午ごろ	同報無線で訓練終了のお知らせ

6 重点項目

- （1）地域で起こりうる被害を考え、自らの命を守る“自助”ためにとるべき行動を確認する。
- （2）地域で出来る“共助”を確認し、地震発生時の被害を軽減する。
- （3）避難生活等を想定し、災害発生後に備え行動する。

7 訓練計画

繰り返しの訓練により避難行動を体得するための避難訓練を沿岸部各自主防が実施するほか、各自主防において、防災資機材の点検や操作方法の習熟訓練、初期消火訓練、救護訓練など中高生も参加しての実践的な訓練の実施。

細江小学校区において、小学生の登校時の発災を想定しての津波避難訓練の実施。